

ああ、恥ずかしい 私の失敗談

板橋

20代の頃、私は看護師の女性と二人で残雪眩しい5月の後立山連峰鹿島槍ヶ岳に登っていました。山は早出早着、下界の生活よりも沢山寝れる事が楽しみの一つですが、この頃の私といえば星空の魅力に取り憑かれ、夜は銀塩カメラで星空を撮る事を楽しみにしていました。

当時部屋に張っていたポスターといえば星野道夫展で手に入れた、白い劔岳と宇宙が降ってくるような星の写真。その日の夜は、まさにそれと同じ画角が目の前にひろがり、闇に白く輝く劔岳と満点の星空がとても美しく、いい写真も撮る事ができとてもすばらしい夜でした。

（私は当時、結婚はしていなかったものの現在の嫁さんと同棲して数年、内縁関係にありました。休みの日は当然山が優先。この日は彼女の誕生日でした。）

翌朝も外は快晴。私は雪を掘り起し出てきた灌木の枝をパキパキと2~3cmくらいに折って、それを雪面に「Happy Birthday」と並べ、白く輝く劔岳と青い空をバックに携帯でぱしやりとしました。（これまたいい写真が撮れました）

白く眩しい山々に真っ青な空、最高のロケーションで会心の写メールを彼女へ送信ズキュンしたわけであります。（完璧、超ロマンチック。）

が、こちらが舞い上がっているときは大抵失敗します。帰宅するとなぜかご立腹のご様子。どうも私にはサッパリですが、

「看護師の女性と二人…」

「…この日は彼女の誕生日」

これ、まずかったようです。 また、ハズしました。（失敗です）



世の山男はこのような行為を積み重ね、「人でなし」「ろくでなし」と言われ、破滅に向かうと聞いたことがあります。

結婚を機に「もう山を辞めます」と念書を書かされた方の話を聞いたことがあります。大人になると大変なことが色々あるようですね。

私も同様、そんな暗雲が立ち込む気配がしたので、いっそのこと彼女を山の世界に引きずり込みこっち側の人間に仕立て上げる事にしました。（これは成功です）

それから数年後、そんな私たちも契りを結ぶことに。

挙式を無事終えた日の夜の事です。嫁さんの実家で御両親を前に、「9年間勤めた会社を辞めネパールに三ヶ月間行き、帰国後はプー太郎になる」と、淡々と決意表明し、投下した爆弾が爆発する前に翌朝逃げるように山へと向かうのでした。（これも成功です）

そんな数々の悪行も今では悔改め、社会適合者として社会の一角を担っております。